単元の言語活動2　故事成語を「五・七・五」で表現する

活動のねらい

本単元では二つの言語活動を配置した。単元の言語活動1では初学の段階であることを踏まえ、グループを作り、グループのメンバーと交流をしながら楽しんで取り組める活動を配置した。一方、本活動はそれを受けて、学んだことを個人で深め、深めたものをアウトプットし、たがいに評価し合う活動となることをねらいとした。

「故事成語」の学習では、ある程度まとまった量の漢文に触れ、訓点に従って読む、という技術的習熟がメインとなるだろうが、故事成語は長い歴史の中で蓄積された英知であり、我々の言語活動を豊かにできる言葉でもある。単元では学ぶことのなかった故事成語も含めて自ら検索し、その意味と由来を調べる力と、さらには調べた内容を「五・七・五」という定型文にまとめ、発表する力は、どちらも今後生徒たちに求められる国語力である。

図書室を使用したり、様々なデバイスを活用したりして、楽しみながら実践していただけると幸いである。

タイトル・序文の解説

我々は普段、「故事成語」とひとくくりにして使用することが多いが、元々は「故事」と「成語」とが組み合わさったものであることを確認しておきたい。我々が「故事成語」と表現するものは、中国では「成語」とのみ言われており、漢和辞典にも「昔からよく知られよく使われることば。」（角川書店『新字源』）、「ことわざ。故事成語。成句。」（三省堂『漢辞海』）と説明されている。一方、「故事」については、「①むかしあった事がら。②後世のしきたりのもとになったむかしの事がら。③（国）後世のことばの起源になっているむかしの事がらや物語。」（角川書店『新字源』）、「①昔あった事柄。②先例。しきたり。③後世のいわれや、ことばの起源となった昔の事柄。」（三省堂『漢辞海』）とあり、どうやら③の意味で用いられているらしいことが見て取れる。

「課題」の解説

課題　**故事成語を一つ選び、意味と由来を調べ、「五・七・五」にして発表し、互いの作品を鑑賞し合おう。**

本活動では、まず、我々が普段用いている「故事成語」のもとになった話までさかのぼり、どのような経緯で「成語」としての意味を持つようになったのかを自ら探究してもらいたい。探究した内容を端的に表現する方法としては、「五・七・五」という表現形式を採用した。あまり長くしてしまうと、クラス全員のアウ

トプットを共有することが難しいため、初学の段階であることを考慮して、できれば全員のアウトプットを可視化し、鑑賞することができるように、という考えからである。

活動の解説

1 故事成語を一つ選び、意味と由来を調べよう。

①漢和辞典や故事成語辞典、資料集を参照し、故事成語を一つ選ぶ。［知技(2)ア・エ］

本単元には三つの話が掲載されており、授業で扱い切れない話もあると思われる。その場合は教科書に掲載されている故事成語を選択してもよいだろう。また、辞典や資料集から と提示してはいるが、学校の図書室には他にも様々な工具書があると思われる。司書教諭と協力をし、故事成語を検索するのに便利なものがあれば、あらかじめ準備して教室に用意しておくのもよいだろう。無論図書室を利用して授業をすすめてもよい。近年はＩＣＴ教育の環境も整備されつつあるので、インターネットを通じて故事成語を検索させる、という方法もあるだろう。あるいは時間の関係で、故事成語の一覧をあらかじめ教員が作成し、その中から選択させる、ということでもよいだろう。生徒の置かれた状況や時間数に応じて柔軟にご対応いただきたい。

【評価】・漢文由来の故事成語を調べることを通して、我が国の文化と中国の文化との関係について理解しているか、確認する。

・現代でも使われる故事成語と漢文のつながりについて理解しているか、発言や行動などにより確認する。

②意味・もととなった話（エピソード）を辞典やインターネット、資料集で調べる。［知技(2)ウ］

①の活動とも関連してくるが、インターネットで故事成語を探す場合、漢文由来ではない故事成語を見つけてくる生徒もいる。多くはことわざと勘違いをしている場合が多く、もとの話を見つけようにも見つからない状況になってしまうことが多いので注意を促したい。

資料集にはもととなった話とセットで故事成語が紹介されているものも多いので、生徒が活用するのにも大変便利である。活用をお勧めしたい。

【評価】故事成語の意味・もととなった話（エピソード）を調べることを通して、訓読のきまりなどについて理解しているか、確認する。

2 「五・七・五」を作ろう。

①もととなった話の特徴的な点を見つける。

もととなる話にも長短あるだろうが、まずは現代語訳でかまわないので、もととなった話を読み込ませ、一読して生徒自身の目を引いた箇所や、エピソードの特徴的な点などを挙げさせるとよいだろう。教科書の未習部分の故事成語を用いる場合には、資料集やインターネットで現代語訳を検索させるとよい。

ただ、すべての故事に特徴的な点があるわけでもないので、

気になる箇所を無理に探させなくともよいだろう。

②意味・状況・由来が伝わる「五・七・五」を心がける。 知技 (1)ウ

例「朝三暮四」猿たちは　暮れの四つに　目が行かず
「呉越同舟」君と僕　呉越同舟　試験前
「五十歩百歩」チョコ一個　君は母から　僕は義理

ここでは、教科書に挙げた具体例を元に説明をする。この具体例は実際に生徒が作成してくれたものを紹介させていただいた。

「朝三暮四」は「愚者が人のことばの内容をよく考えないこと。また、人がことばたくみに他をあざむくたとえ。むかし、狙公（さる飼い）が、えさを朝に三つ、暮れに四つやると言うとさるがいかり、朝に四つ、暮れに三つやると言うとさるが喜んだという話による。」（角川書店『新字源』）とある。この話の「朝に三つ、暮れに四つ」という部分で怒ったさるたちには、暮れの四つが見えていなかった、という状況を「五・七・五」にまとめたものが「猿たちは　暮れの四つに　目が行かず」である。「人のことばの内容をよく考えない」ということも表現されており、「朝三暮四」のエピソードの特徴的な箇所も伝わる作品となっている。

「呉越同舟」は「かたきどうしがいっしょにいるたとえ。」（角川書店『新字源』）、「仲の悪い者どうしがいっしょにいること。」（三省堂『漢辞海』）とある。仲の悪い者同士が一緒にいる状況を、普段仲が悪くて一緒にいることのない二人が、勉強にひときわ熱心に取り組まなければいけない試験前という状況で一緒にいる、さらには協力までしている状況を「五・七・五」でまとめたものが「君と僕　呉越同舟　試験前」である。故事成語を「五・七・五」にする、という課題で故事成語そのものを用いることにご意見もあろうが、意味を汲んでうまく活かしてあるので、一例としてご紹介した。

「五十歩百歩」は「戦争で五〇歩にげた者と百歩にげた者とはにげた距離は異なるが、にげたことは同じ。少しだけの違いで大局は同じ。」（角川書店『新字源』）、「戦場で五十歩逃げた者と百歩逃げた者の間に大きな違いはなく、逃げたという点では同じである。似たり寄ったりの状況を学生がおかれた状況にあてはめて「五・七・五」で表現したものが「チョコ一個　君は母から　僕は義理」である。年頃の男子にとってはバレンタインというイベントでチョコレートがもらえるかどうかは気になるところだが、母からもらった「君」と、義理でもらった「僕」とは大差がない、という悲哀をうまく「五・七・五」にまとめてある。

【評価】故事成語を「五・七・五」で表現することで、我が国の言語文化に特徴的な語句について、語感を磨き語彙を豊かにしているか、確認する。

3 調べたことをまとめよう。

選んだ故事成語とその意味、もととなったエピソード、2で作成した「五・七・五」を紙一枚にまとめる。 知技 (1)ア

例

「蛇足」　参考文献　資料集

意味　無駄な行為。あっても益のないもの。

由来　もらった酒を飲むのに、蛇を早く描いた者がそれを飲むことになったが、一番に描き上げた者が、蛇に足を描き足したため、酒を飲み損ねたという話に基づく。

出典　劉向『戦国策』

「足一本足して失うよき一杯」

成果を紙一枚にまとめる、としたのは交換して互いの成果を読み合う活動を実施しやすくするためである。互いの成果を読み合うことで自分が調べた以外の故事成語とその意味や由来に触れることができるため、故事成語自体への理解を深めることも可能となるだろう。また、クラスメイトが作成した「五・七・五」は、教員から与えられる情報とは異なり、一人一人の試行錯誤の結果として溢れる魅力を持つと考える。初学の段階で互いをよく知らない者同士が、互いの人となりを知るのにも役立つであろう。

本活動では紙一枚にまとめるとしたが、情報共有の仕方は他にも考えられる。ネット環境が整っていれば、ネット上で共有することも可能であろうし、逆に故事成語と作成した「五・七・五」を全員に板書させ、品評会のような形をとることも可能であろう。状況に応じて柔軟にご対応いただきたい。

4 グループを作り、相互評価を行おう。

3 でまとめた紙を互いに読み合い、評価をする。 思判表B(1)オ

主態

一グループの人数は四人から五人くらいが適当と思われるが、参加人数によってご判断いただきたい。グループのメンバー同士で互いのまとめを読み、「五・七・五」を鑑賞し合うとともに、自分が一番よいと思った作品を挙げ、よいと思った理由やよいと思った点を伝え合う。時間が許せば以下の方法を追加してもよいだろう。

生徒の作成した「五・七・五」にグループのメンバーから改善点をコメントさせ、本人に戻し、改めて推敲した「五・七・五」を再度共有する、という方法である。なかなかそこまで時間を割くことは難しいだろうが、可能であればお試しいただきたい。

【評価】・故事成語をもとにした「五・七・五」の相互評価を行い自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持とうとしているか、確認する。
・故事成語を「五・七・五」で表現することで、現代でも使われる故事成語と漢文のつながりを理解し、我が国の言語文化について自分の考えを持とうとしているか、行動を点検したり、言語活動WSの記述を確認したり、振り返りシートの記述を分析したりする。

（宮　利政）